

2016 年度日本鳥学会評議員会報告

期 日：2016 年 9 月 16 日（金）18:00–20:30
場 所：北海道大学札幌キャンパス理学部
407 号教室

出席評議員：西海 功（会長）、植田睦之（和文誌）、尾崎清明、亀田佳代子、川上和人（会計幹事・企画）、高木昌興、永田尚志、中村雅彦、濱尾章二（基金運営・図書・自然史学会連合）、早矢仕有子（副会長・大会会長）日野輝明、山口典之（事務局長）、綿貫 豊

欠席評議員：江崎保男、三上 修

各種委員会代表等：新妻靖章（英文誌）、佐藤重穂（鳥類保護）、金井 裕（記録）、山崎剛史（分類）、高須夫悟（広報）

事務局：嶋田哲郎（庶務幹事）

監 事：山口恭弘

報告・審議事項

- 1) 各種委員会報告（報告内容については委員会報告を参照）
- 2) 事務局関係報告
 - a) 会員動向
 - b) 2015 年度決算報告（和文誌 65 巻 2 号に掲載）
 - c) 2016 年度予算執行状況の報告
- 3) 審議事項
 - a) Editor's choice の導入について（英文誌編集委員会）

英文誌でも Editor's choice を導入することが諮られ、承認された。
 - b) 次期各種委員会体制に関する審議
和文誌編集委員会：東 淳樹が退任し、小田谷嘉弥・小林さやかが就任、日本産記録委員会：板谷浩男・大西敏一・小田谷嘉弥・先崎理之・高木慎介が就任、企画委員会：早矢仕有子・東 淳樹・植田睦之が退任し、上沖正欣・千田万里子が就任、広報委員会：百瀬 浩が退任し、長谷川 理が就任。

- c) オオミズナギドリのコロニーがある東京都御蔵島のノネコ対策について（鳥類保護委員会）

環境省、東京都および御蔵島村への要望書について意見を交換した。
- d) 基金一覧・基金運用計画（基金運営委員会）

基金運営計画について諮られ、承認された。
- e) 新賞の提案と付随する規定・細則に関わる情報（基金運営委員会）

新賞（若手奨励賞）の提案および各賞に付随する規定・細則に関わる情報について諮られ、承認された。
- f) 基金運営委員会規定改定について
基金運営委員会規定改定案について諮られ、承認された。
- g) 2018 年度大会開催地
2018 年度大会開催地（新潟）について審議、承認された。
- h) 大会規定および大会運営指針の策定について
大会規定および大会運営指針の策定について諮られ、承認された。
- i) 2017 年度予算案
2017 年度予算案が諮られ、承認された。
- j) 会計監査に関する規定改定について
現状に即した形での規定改定案が諮られ、承認された。

2016 年度総会議事報告

2016 年 9 月 18 日（日）16:00–18:00（北海道大学札幌キャンパス高等教育推進機構 E201 教室）：開会宣言、会長挨拶、大会会長挨拶、総会成立確認の後、相馬雅代氏を議長に選出し、以下の報告が行われた。

- 1) 事務局報告（評議員会報告を参照）
 - 2) 評議員会報告（評議員会報告を参照）
 - 3) 各種委員会報告（各種委員会報告を参照）

以下の議事が審議され、承認された。
 - 1) 2015 年度会計決算報告／監査報告
 - 2) 大会規定・大会運営指針の策定および大会準備金の予算化
 - 3) 2017 年度予算案
 - 4) 基金運営委員会規定改定案
 - 5) 会計監査に関する規定改定案
- 大会規定・大会運営指針に関する審議の際には、

年次大会における講演の撮影，アルバイト代，シンポジウム発表者への学会誌執筆依頼などに関する意見が会員から寄せられた。

2017年度大会開催予定地（筑波大学，つくば）について藤岡正博大会会長より紹介，挨拶がなされた。

閉会宣言にて終了。

和文誌編集委員会報告事項

1) 日本鳥学会誌発行状況

第65巻（2016）の1号は4月に2号は10月に予定通り発行された。1号にはモノグラフ1，短報2，観察記録3，2号には総説1，原著2，短報2，観察記録5を掲載した。65巻より選定することになったEditor's Choice「注目論文」は1号は江口氏のカササギのモノグラフ，2号は浅井氏らによる日本鳥類目録の学名と分類の検証の総説に決まった。

2) 日本鳥学会誌編集状況

2016年1月1日から12月31日までに受け付けた投稿状況および前年からの繰り越し分を含めた原稿の編集状況は以下のとおりである。

	総説	原著	短報	観察記録	意見	合計
前年度繰越	0	5	3	8	0	16
投稿	1	10	3	8	0	22
受付	1	10	2	6	0	19
受理	1	6	3	10	0	20
編集中	0	9	2	4	0	15
不受理	0	0	0	0	0	0

3) J-stage 搭載電子版のアクセス

J-stageにおける過去1年間（2015年1月～2015年12月）の和文誌掲載論文（2006年第55巻～2015年第64巻）に対する全文PDFアクセス数は20,323件であり，昨年よりも1.3倍に増加した。国別内訳では，昨年と同様に，日本とアメリカで95%を占めていた。掲載数に比してアクセス数が多かったのは，原稿の種類別は，総説や原著論文のアクセス数が掲載数と比して多かったのに対し，観察記録は少ない傾向にあった。対象種別では，タカ目のアクセス数が多い傾向にあった。

（和文誌編集委員長）

英文誌編集委員会報告

1) 発行状況

第15巻1号（原著論文10編・短報1編）を1月，2号（特集号論文4編・原著論文8編・短報

1編）を7月に発行した。

2) 編集状況

2016年1月-12月（1/15現在）

総投稿数 44（前年比1.38倍）

受理数 18 採択率 62.1% [受理数/（総投稿数-審査中数-取り下げ数）]

審査中 15

取り下げ 0

却下数 11（うち編集委員会却下数 6）

（英文誌編集委員長）

鳥類保護委員会報告

1) 御蔵島のオオミズナギドリ繁殖地の保全を求める要望書の提出

学会会員からの要望書の提出の提案があり，鳥類保護委員会で検討した。

東京都伊豆諸島の御蔵島は世界最大のオオミズナギドリの集団繁殖地であるが，近年，ノネコ等の外来哺乳類が野外で増加したことなどからオオミズナギドリの個体数が急減しており，看過できない状況に陥っている。このため，環境省，東京都，御蔵島村の三者で連携して繁殖地の保全対策をとることを旨とする要望書を鳥類保護委員長名で環境大臣，東京都知事，御蔵島村長に宛てて2016年11月9日付で提出した。

（鳥類保護委員長）

日本産鳥類記録委員会報告

1) 目録第7版の記述事項に関する質問への対応
目録第7版の記述のうち，各地の生息記録に関する一般，もしくは他委員会からの質問に答えるための文献資料等の確認作業を行った。

2) 目録の記載変更根拠資料の整理

目録6版から7版への記載変更の根拠文献の確認を行い，資料として整理する作業を協力者を募って実行中である。

3) 日本産鳥類の記録文献収集および整理

稀種の記録，各地鳥類相，標本目録等の記述が掲載されている，日本産鳥類の記録に関する文献の収集と整理を行った。これらは今まで同様，ある程度まとまりがついたところで，随時和文誌上に公表していく予定である。

4) 日本産鳥類の記録収集と整理

未だ文献化されていない日本産鳥類の記録（インターネット上に公表された記録，個人的伝聞による記録など）についての情報の収集と整理を行った。

5) 日本産鳥類の記録に関する文献作成への協力量委員会を委員を通して要請があった場合に限り、目録、報告書、論文の作成時に過去の記録などが明らかでない場合に、その探索と提供を行った。

(日本産鳥類記録委員長)

鳥類分類委員会報告

1) 分類体系の変遷についての情報収集とその公開
前目録編集委員会委員と当委員会委員の共著にて、スズメ目 15 科に関する近年の分類体系の変遷をとりまとめた総説を出版した(日本鳥学会誌 65: 105-128)。他の分類群についても同様の総説を出版する準備を進めた。

2) 目録第 8 版出版についての検討

日本鳥類目録は、1922 年の初版出版以来、10 年おきの改訂を目標に版を重ねてきた。最新の第 7 版は 2012 年に出版されたため、当初の目標通りに刊行を行うのであれば、第 8 版は 2022 年の出版となる。

当委員会は、日本産鳥類記録委員会とともに、このペースでの出版が可能かどうか、また、必要かどうかについて、具体的な検討を進めた。

(鳥類分類委員長)

企画委員会報告

1) 鳥の学校

日本鳥学会 2016 年度大会に合わせ、2016 年 9 月 20 日(火)に鳥の学校テーマ別講習会「鳥類研究のための GIS 講座」(講師:鈴木 透)を酪農学園大学において開催した(本号に報告記事掲載)。

2017 年度は、大会にあわせて DNA 分析に関する講習の開催を企画中である。

2) 男女共同参画関連

第 14 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムが 2016 年 10 月 8 日(土)にお茶の水女子大学にて開催され、藤原宏子委員および西海 功会長が日本鳥学会を代表して参加した(本号に報告記事掲載)。

3) 第一回日本鳥学会ポスター賞の実施

2016 年度大会においてポスター賞を実施し、「生態・行動」分野で加藤貴大氏を、「保全・形態・遺伝・生理・その他」の分野で松下浩也氏を選出・推薦し、決定された。2016 年度大会において授賞式を行い、受賞者には大会事務局および株式会社モンベルより記念品が贈呈された。

4) 若手科学者ネットワークへの参加

日本学術会議若手アカデミーの若手科学者ネットワーク分科会から、若手研究者をつなぐネットワークへの参加の要請があり、佐藤望委員が担当者として対応することとなった。

(企画委員長)

広報委員会報告

1) 英文ページのリニューアル

2015 年の和文ページのリニューアルに続き、数年前から更新が進んでいなかった英文ページをリニューアルした。ただし、まだ不十分などところがあるので今後修正していく。

2) 鳥学通信の発行

2014 年 7 月 26 日に 43 号を発行して以来、停滞していた鳥学通信を、インターネット上でブログ形式として配信を始めた。配信を始めたのは、2015 年大会の直後である。ブログ形式にしたことで、掲載する労力が格段に下がった。2016 年は 45 件の記事が掲載された。記事が掲載された日には 300 アクセス程度、記事が掲載されていない日でも 100 程度のアクセスがある。

3) SNS の活用

鳥学通信の内容およびウェブサイトのお知らせの一部を Facebook と Twitter でも配信し、情報を積極的に拡散するようにし始めた。上述した掲載日にアクセス数が上がっているのはこれらの効果だと思われる。

4) 各委員会へウェブサイトの管理の委譲

これまでは「各委員会からウェブサイトの変更の要請→広報委員で変更→各委員会に確認→承諾を得て公開」としており、更新に時間もかかり手間もかかった。そこで、各委員会に、範囲を限定したうえでウェブサイトの変更管理権限を渡し、各委員会で更新してもらう体制を作り始めた。まだ始まったばかりなので問題点を洗い出す段階だが、これにより「各委員会がすばやく、独自にサイトの更新できる」「委員会の情報発信しやすさの壁が下がることで、情報発信力が高まる」などの利点を期待している。

5) 委員の交代

2016 年より、森さやか、上沖正欣の 2 名が新任。

2016 年末で、百瀬 浩が退任。

2017 年より、長谷川 理が新任。

(広報委員長)

基金運営委員会報告

1) 2016 年度各賞

黒田賞受賞候補者として風間健太郎氏を評議員会に推薦した。詳細は、日本鳥学会誌 65 巻 2 号で報告済み。

内田奨学賞には対象者がなかった。

2) 若手対象の新賞設置

新賞設置検討部会、昨年度評議員会の意向を受け、具体案を作成した。また、新賞設置にともなって策定される賞に関する規定のための基礎情報を整理・検討した。

3) 基金一覧，基金運用計画

別表の通り。

(基金運営委員長)

図書管理委員報告

中村 司名誉会員（元会頭）から著書「渡り鳥の世界－渡りの科学入門」（山梨日日新聞社刊）60 冊の寄贈をいただいた。一部を 2016 年度大会会場で販売し、収益を中村基金に加えた。

(図書管理委員)